



# Jichi 地域連携ニュース

- ・地域医療連携研究会の開催報告
- ・ハローワーク宇都宮による治療と仕事の両立に関する相談会について
- ・バルセロナで思ったこと……………川合謙介
- ・FAXによる患者様紹介について
- ・自治医科大学附属病院医師同門会について

## 地域医療連携研究会の開催報告

### 第 7 回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会を開催しました ～ テーマ「ライフステージと地域医療」～

患者サポートセンター

平成 30 年 5 月 26 日（土）18 時より、ホテル東日本宇都宮において、「第 7 回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会」を開催したところ、県内外 39 の内科・歯科施設や当病院から医師・歯科医師・看護職・相談員等、合計 136 名が参加されました。

笹沼患者サポート副センター長の開催挨拶に続き、森澤患者サポートセンター長を座長として、「ライフステージと地域医療」をテーマに、次のとおりご講演いただきました。

#### I. トランジション医療

—小児から成人へ特に医療的ケア児を中心に—  
自治医科大学小児科学教授 小坂 仁

#### II. 重症心身障害施設の現状と課題

—NICU から在宅への橋渡し機能やレスパイト機能—  
国立病院機構 宇都宮病院 病院長 沼尾利郎



病院報告（佐田病院長）

最後に佐田病院長より当病院の現況と今後に関する報告があり、研究会は成功裏に終了しました。

また、研究会終了後、19 時 45 分より開催された情報交換会には約 120 名が参加し、長田副病院長の挨拶、沼尾病院長（NHO 宇都宮病院）の乾杯を皮切りに活発な情報交換・懇談が行われ、間藤救急科長の閉会挨拶をもって、情報交換会も大変盛況のうちに終了しました。

なお、来年（平成 31 年）は、5 月 25 日（土）に開催する予定であり、引き続き充実した研究会を実施したいと考えております。



研究会風景



講演 I（小児科学 小坂仁 教授）



講演 II（NHO 宇都宮病院 沼尾利郎 病院長）



先日、国際てんかん学会に参加するためにバルセロナを訪れた。ランブラス通りでテロが起きたばかりで若干の心配はあったが、街中は何事もなかったような賑やかさだった。通りの入口には花が供えられたままだったが、それは街路の入口だけで、兵士や警官の姿も見えず、通りは世界中からの観光客で溢れていた。

国際てんかん学会は2年おきに8月下旬から9月上旬にかけて開催される。日本やアメリカの学会に比べると、プログラムはあまりタイトでなく、お祭りのようなところがある。今回の主要テーマは、てんかんとてんかん発作の新分類である。てんかん分類は1989年の、そしててんかん発作分類は1981年のものが用いられてきた。およそ30年ぶりの改訂である。旧分類では、てんかんの原因を特発性と症候性に、てんかん焦点の分布を全般性と局在関連性に分類する。てんかん発作は、意識障害の有無によって複雑発作と単純発作に分類される。どちらも有用性が高く、広く普及した。しかし、意識障害の有無を「複雑」complex、「単純」simpleと記述するのは、初めて聞く人の理解を超えており、特に患者や家族には理解されにくい問題があった。

今回の改訂の骨子の一つは、一般にも理解しやすい用語を用いることである。例えば複雑部分発作 complex partial seizureは、焦点性意識障害発作 focal impaired awareness seizure といった具合に変更された。さらに、この30年でてんかんの病因や発症にかかわる遺伝子異常がかなり明らかになったので、特発性idiopathic、症候性symptomaticという分類はなくなって、より具体的に器質性、遺伝性、感染性、代謝性、免疫性、不明に分類された。

その他の主要テーマは、ビッグデータ解析とプレシジョン医療などである。最近どの医学領域でも取り上げられることの多いトピックだが、てんかんでも同様で、脳波の記録・解析期間が数日レベルから、一気に数ヶ月に延長し、てんかん発作の発生傾向に関する新知見が出てきた。脳神経の電気刺激治療や脳内ネットワーク解析などとともに今後の発展が楽しみである。

さて、バルセロナと言えば、やはりガウディだろう。今回のバルセロナ訪問で、実物のサグラダ・ファミリアを見てみたいという40年来の想いがようやく実現した。高校時代、私は洋画家の親戚宅に寄宿しており、居間には「みずゑ」とか「美術手帳」とかいった美術雑誌が転がっていた。ある日、何気なく手にとった雑誌に載っていたサグラダ・ファミリアの写真を見て受けた衝撃を今でも忘れられない。教会と言いながら、まるで今にも動き出しそうな生命感。その頃熱中していたプログレロックバンドのアルバムジャケット（後に「エイリアン」を作ったHRギーガーのデザイン）を彷彿とさせる怪物のようなおどろおどろしさ。しかも、1900年頃から建築が始まっていまだに完成していないとは。

今回のバルセロナ訪問前にバルセロナやガウディに関する本を何冊か読んだ。その中で最も印象に残ったのが、「ガウディの伝言」（光文社新書）である。著者の外尾悦郎氏は、日本の芸術系大学を卒業した後、流浪の末にサグラダ・ファミリアに雇われる。朝は誰よりも早くから、夜は一人残って石を彫り続け、主任建築家やスペイン人同僚の信頼を勝ち取り、外国人にもかかわらず専任彫刻家として「生誕の門」を完成させる。氏は、本書で30年にわたるサグラダ・ファミリアでの体験を語りながら、ガウディの建築に込められた思想を説き明かしてゆく。わかりやすい美術・建築解説書にして、ガウディの思想と宗教に対する自らの思索が語られ、さらにバルセロナの歴史についても解説したきわめて魅力的な本であった。1926年に亡くなったガウディが残した設計図や模型のほとんどは1930年代のスペイン内戦で破壊されてしまうのだが、サグラダ・ファミリアにわずかに残る彫刻やバルセロナ近郊の他の作品から、ガウディならこう考えたはずと解釈して、50年間封印されてきたロザリオの間を修復するくだりは感動的である。

高校生の私がサグラダ・ファミリアの写真から抱いたガウディのイメージは、独創的で感性的、抽象性と天才性といったものだった。しかし実際には緻密な幾何学と建築学を土台とし、さらに、多くの鎖を繋いで形成される反転アーチの実験など、綿密な準備を経て設計されたのである。ガウディが独創的

で天才であることに間違いはないが、むしろ自然界の具体的造形をモデルとして、科学的実証的であり、職人的で宗教的なのであった。サグラダ・ファミリアのおどろおどろしいイメージは、自然と神の崇高なイメージに置き換わり、実物を見てみたいという気持ちが益々強くなった。

そして帰国の朝、間近に見上げたサグラダ・ファミリアは想像をはるかに超えていた。ガウディ自ら手がけた生誕の門の骨格は、外尾氏の彫刻と見事に調和しており、周囲のクレーンなど忘れさせるほど神々しいものだった。最近完成したという門扉のツタ飾りにさりげなく日本のカブトムシが彫り込まれているのを発見した時は妙に嬉しく感じた。内陣に入ると、大木のように枝分かれする支柱に囲まれ、巨大な森の中にいるような感覚になる。構造学的に優れた放物線状のアーチによって、ゴシック教会のような厚い外壁が必要ないので、天井や側面からふんだんに光が降り注いでくる。内陣の神々しさは、写真からは到底想像できるものではなく、感動的であった。しかし、一方で最後に外から眺めた受難の門は、直線的で何となくのっぺりとした造形で、正直違和感を覚えた。カタルーニャの新進彫刻家によるものらしいが、ガウディ的とは言いがたい。身びいきもあるが、日本人の外尾氏が完成させた生誕の門の方がずっとガウディ的だと感じた。



何となく割り切れない気持ちで教会を後にしながら、「ガウディ的」とは何なんだろうと考えた。あくまでも石を彫ることにこだわるか、コンクリートや3Dプリンタなど新しい技術の導入を進めるか、人間が作り得る最高のものを神に捧げるといふガウディの思想にかなうのはどちらなのか、評価が定まるのにはまだまだ年数が必要なのかも知れない。科学と芸術、先端技術と職人氣質、物事の本質のためには細部を捨てるべきか細部に拘るべきかといった相克は、ガウディの中では見事に調和し昇華されていたのではないかと外尾氏はいふ。脳神経外科の進歩も、科学や最新技術と職人的な匠の技の調和が要求される。容易なことではないが、ガウディを見習って調和の精神を忘れずにいたいものと思った。

今夏に学会で訪れたバルセロナでの雑感を記させていただいた。バルセロナは特に1992年のオリンピック以降、観光地としてきわめて有名になったので、訪れた方も多いただろう。何を今更ガウディかと思われた方にはご容赦いただきたい。カタルーニャの独立運動とそれに反対する勢力の対立など穏やかでない話も聞こえてくる。素晴らしい造形物が二度と破壊されることがないことを祈っている。

## 自治医科大学附属病院医師同門会について

当病院では、OB医師を中心に「自治医科大学附属病院医師同門会」を組織し、総会・懇親会の開催や会報の発行等を行っております。

入会の条件は、「①自治医科大学附属病院で、医師・歯科医師として勤務経験があること、②同会の趣旨に賛同していただくこと」の2点のみです。会費は3年間で1万円です。

これを機会に是非入会をお勧めいたしますとともに、皆様方の周囲に当病院OB医師がおられるときは、当会の存在をご案内くださいますようお願いいたします。

入会に関する連絡・照会先は次のとおりです。

自治医科大学附属病院 医師同門会事務局（地域医療連携室内）

担当：伊原 麻佑、加納 秀樹

TEL 0285-58-7463 0285-58-7461

FAX 0285-44-5397

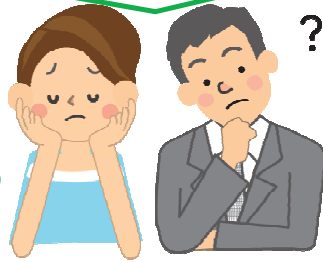
e-mail byoushin3@jichi.ac.jp

# 治療をしながら働きたい、 働き続けたい方へ

治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい！

通院しながら働きたい！

仕事復帰の不安を解消したい！



自分の病状にあった  
仕事を見つけたい！

就職活動で、会社に  
病気のことを伝える  
べきか迷っている。

## ～治療と仕事の両立に関する相談会～

### 在職中・休職中の方

両立支援促進員  
(栃木産業保健総合支援センター)  
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日  
10:00～13:00

### (再)求職中の方

就労ナビゲーター  
(ハローワーク宇都宮)  
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日  
13:30～15:30

院内で相談が受けられます！  
事前のご予約を！

◇方 法：完全予約制\*相談希望月の第1火曜日17時までにお申し込み下さい

◇費 用：無料

◇その他：\*疾患の種類・県内外住所地は問いません。

\*匿名でのご相談もお受けしております。

◇相談実施場所（自治医科大学附属病院内）

患者サポートセンター医療福祉相談室

◇予約連絡先 0285-58-7107（直通）

◇実施機関連絡先

栃木労働局 ハローワーク宇都宮 専門援助部門 電話028-638-0369 部門コード#45

独立行政法人 労働者健康安全機構 栃木産業保健総合支援センター 電話028-643-0685

◇後援：自治医科大学附属病院 患者サポートセンター



## FAXによる患者様紹介について

当院では、FAXにより患者様の事前予約を行っております。事前にカルテの作成等事務手続きを済ませておくため、受診当日の患者様の待ち時間が短縮されます。是非ご利用いただきますようご案内いたします。

**F A X 事前予約受付（休診日を除く）**  
月曜日から金曜日まで 午前9時～午後3時《厳守》

### — ご注意 —

- ◆ 医療機関以外（患者様本人等）からの予約受付は行っておりません。
- ◆ 受診当日の予約、および時間予約は行っておりません。
- ◆ 予約を変更（又は取消）される場合は、事前に紹介元医療機関から地域医療連携室までご連絡ください。

### < FAX予約のご利用方法 >

1. 「紹介状（診療情報提供書）」および「FAX診療予約申込書」を作成し、当院あてにFAX送信してください。FAX診療予約申込書は、当院のホームページ（<http://www.jichi.ac.jp/hospital/>）よりダウンロードできます。
2. 当院では予約をお取りし、「FAX・紹介患者のお知らせ（返信）」と「FAX診療予約申込書」を返信します。
3. 患者様に「紹介状（診療情報提供書）」と「FAXによる診療」予約票をお渡しくください。
4. 来院日には、「紹介状（診療情報提供書）」と健康保険証を持参し、医事課・FAX紹介状提示窓口に提示するようご案内をしてください。

